

# 市長と議長の新春対談



▲明日の日本を支える観光ビジョン構想会議  
(平成27年12月7日・首相官邸)

ます。期待が高まります。

**市長** 80周年という大きな節目にあたり、市民の皆様が自ら手を挙げ「やろうよ」と行動されることは大変ありがたいことです。

**議長** 市民の皆様からこういった意識が生まれることは、非常にいい80周年のスタートを切ることができそうですね。

## インバウンドと観光振興

―国では訪日外国人旅行者数(インバウンド)2,000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、次のステージの検討を行う「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を開

催。首相官邸で先月開かれた会合に市長は全国の首長で唯一、有識者として参加されました。市長が訴えたことをお教えください。

**市長** まずはビザの緩和や入国手続きの簡素化など、入国に関わる改善を訴えました。そもそもですが、日本に来ていただけるときの人口を広げないことには、一層のインバウンドを期待することはできません。

次に外国人旅行者が国内を周遊観光する際のハードルを低くしてほしいと訴えました。例えば、鉄道やバス、タクシー、レンタカーなどを乗り継いで国内各地を旅行する方は何枚もチケット(パス)が必要になります。この煩雑さを解消し、できることなら1枚のパスで済むような手軽さが必要だということです。

また、省庁の規制・補助金の改善



なども訴えてきたところです。

**議長** 観光振興については議会でかねてから政策提言をしてきました。ポイントは観光消費額を伸ばし、地域の雇用に結び付けることです。観光産業の盛り上がり、その他の産業にも連動させる環境をどうやって構築するかが重要ですね。

また、外国人観光客の受け入れ体制の充実、国内日帰り旅行者も伸ばしつつ宿泊客化させていく仕組みなど、もっと考えていかなければならないと思っています。

―今ほどの「消費と雇用」に結び付けるようにするには。

**市長** まさしく観光振興を図ることの目標です。いかにしてお客様が使ってくださいとお金を市内に留めて循環させるか、地域経済に上乘せしていくかが大事なことで、私たちは

その点に気を配り、さまざまな施策を講じていかなければなりません。

また、議長がおっしゃったとおり、国内の日帰り

観光客も大切にしていかなければなりません。外国人観光客を10万人増やすことは大変なことですが、国内のお客様を10万人増やす手立ては、可能性として非常に高いですから。

**議長** インバウンドに感じることは、一つは消費に対する考え方が日本人と違いますので、そのあたりをきちんと押さえ、サービスなどを体系化していくことも重要ですね。

急激なインバウンドに直面する高山市は、観光の中身を少しソフト化で充実させていくこともこれからは必要なことだろうと思います。

**市長** 観光庁のデータでは、外国人観光客が10〜20人訪れると、そこに住む人の1人分の消費にあたるそうです。その意味で外国人観光客に訪れてもらいお金を使ってもらうことは重要なことです。

